

アゼルバイジャンは再生可能エネルギーの欧州向け輸出を目指す

1. 再生可能エネルギーの開発

現在、マスダール(UAE)の太陽光発電所(230MW、バクー市アラト)、ACWA パワー(サウジアラビア)の風力発電所(240MW、フズ県・アブシェロン県)が建設中。BP の太陽光発電所(240MW、解放地域ジェブライル県)が最終投資決定前の段階です。また、アゼルバイジャン政府は豪鉄鉱石フォーテスキューのグリーンエネルギー子会社(12GW)、マスダール(10GW)、ACWA パワー(2.5GW)との間で、それぞれ相当規模の再エネ開発に関する基本合意を行いました。アリエフ大統領は、カスピ海洋上風力(157GW)、陸上風力・太陽光(27GW)、解放地域の風力・太陽光(10GW)の潜在性に言及しています。

2. 再生可能エネルギーの輸出

上記の再エネ開発計画は国内需要をはるかに超える規模であり、政府はこれらの再エネを石油・ガスと同様、主として欧州へ輸出する目論見です。検討中の輸出方法は次のとおり。

① 送電線で再エネ電力を輸出し、欧州の電力系統に接続

送電ルートは、ジョージア・黒海海底送電ケーブル経由と、ザンゲズル回廊・ナヒチバン・トルコ経由の 2 ルートが候補となっています。前者は黒海(1,100km)に高圧直流送電線(500KV、1,000~1,500MW)を敷設する事業で現在 FS 中。2029 年までの完工を目指し、今年中にも入札が公開予定とのこと。後者は通過国のトルコが電力市場として魅力的であることに加え、ナヒチバンも太陽光発電の大きなポテンシャルを持つため、有用性が高いと考えられています。

② アゼルバイジャンでグリーン水素を製造し、パイプラインで欧州へ輸出

現在、グリーン水素のパイロット事業が準備中で、水素を南ガス回廊(SCP・TANAP・TAP)で輸送する案が検討されています。同回廊は 2027 年までに輸送能力の増強(TANAP:160 億 m^3 →320 億 m^3 、TAP:100 億 m^3 →200 億 m^3)が計画されていますが、ただし、これは旺盛な欧州のガス需要に対応する目的であり、また、技術的にガスパイプラインへの水素混入は 5~10%が限度と見られているため、大量の水素輸送は困難かも知れません。別途、水素輸送のための新規パイプライン敷設のアイデアもあるようです。

③ 送電線で再エネ電力を輸出した先の欧州でグリーン水素を製造

①の送電線ができれば、再エネ電力を欧州へ輸出し、消費者により近い地点でグリーン水素を製造する計画が、最も経済的で現実的であるという見方もあります。

3. 結び

以上の動きは、資源が豊富で市場は小さなアゼルバイジャンとして合理的なものでしょう。スケールやスピード感到に圧倒される感もありますが、関係国政府、世銀等国際機関、事業者の積極姿勢や欧州のガス・水素需要の高まりを踏まえれば、日本企業としても注視が必要であり、このような事業に参画することも検討に値するものと考えられます。

(以上)